

ぐんま教師塾の 1年を振り返って

小学校社会科6年班		
高崎市立佐野小学校	鈴木尚明	《担当指導主事》
藤岡市立小野小学校	西村浩一	義務教育研究九ループ
桐生市立西小学校	阿久津泰	飯沼 良夫

班別研修に対する所感

ビデオによる授業研究では班員9名の映像を見合いながら意見交換を行い、それぞれの机間指導や指示発問の特徴を客観的に捉えることができた。

模擬授業は一つの指導案を皆で考えて仕上げるという意味においてとても有効であった。それぞれの先生方の視点が違うこともまた違った角度から見る上で参考になった。

共通の課題をもつ者同士で活動するので、本音で言い合いさらにより授業を作り出そうという姿勢をもち続けながら活動することができた。

自分の授業スタイルについて討議することで、新しいスタイルを見つけ、実践する中で成果を得た。同時に課題を解決していくとする新たな意欲をもつことができた。

多彩な講師陣による講義や講話に対する所感

学校にいると教師自身の視野が狭くなりがちであるが、このような講義や講話を聴講することによって、初心に戻ることができ、教師として新たな展望が見えた。

たくさんの興味深い講義や講話があり、学校現場に戻り、授業や日々の実践の中で子どもたちに還元することができた。

「一人一人が自分の考えをもち、その根拠を述べるとき、子どもは満足感を味わえる」忘れかけていた大切なことを思い出させる印象深い言葉もあった。

授業参観協力校での授業参観に対する所感

望ましい人間関係作りを目指す指導者の思いが伝わる授業であり、授業作りにおいて目指す子ども像を具体的に描く必要があることを改めて感じた。活動中のBGMの効果的な活用が特に参考になった。

子どもの生活経験や知識・関心に差のある課題ではあったが、そこから一人一人の興味をうまく引き出し、解決策を考えさせるために、その実態に合った資料が提示された授業であった。

授業実践とその参観に対する所感

各班員の授業を通して、社会科は内容が盛りだくさんで高いレベルを求めすぎてしまう点が浮き彫りになった。活動の焦点化、考える時間の確保などが特に重要となる。

授業後その場において指導主事の先生と班員を交えて研究協議を行い、表面的な部分ではなく本質的な部分まで話が及び、その日のうちに有効な振り返りができた。

どの実践者も時間をかけ十分に考え練り上げた授業を展開することができ、さらに参観者はそれらの授業から参考になることを自分の授業に取り入れ生かすことができた。

同じ目標をもちながらも異なる切り口からの授業構想を共有でき、大きな刺激を受けた。また学年を越えた「社会科学習のイメージ作り」の大切さを再確認した。

